

本を「よむ」 本に出「あう」 Yomu Au

中学生向け図書館だより

2023年7月（第7号）発行：加須市立図書館



「なぜ本を読むことが大切といわれているのだろうか？」と
疑問に思ったことはありませんか。
理由はいろいろありますが、その中のひとつに、
本との出会いは人との出会いに似ている、という考え方があります。
たくさんの出会いを経験して、
ステキな生き方ができるよう応援しています。
読んだ本の記憶は、きっと人生を彩る思い出に変わります！



中学生のみなさんにおくる 図書館員 おすすめの 12 冊

『「心のクセ」に気づくには』

村山 綾／著 筑摩書房

「テストの点数が悪かったのは、努力が足りなかったから。」とか「日頃の行いがいいから、遠出する今日はいい天気になった。」など、人間は、日常起こる出来事に理由をつけてしまうことがあります。それは私達の心にクセがあるからです。

本書は、考え方を変えることで悩みを減らして、前向きな考え方ができるようになるためのヒントが書かれた1冊です。



『ナカスイ！』

村崎 なぎこ／著 祥伝社

「脱・普通」を求めて、日本で唯一の内陸県にある水産高校、通称ナカスイに入学したさくら。

そこには、魚博士の小百合やアニメオタクのかさねなど個性の強いクラスメイトが勢ぞろい。おまけに授業もマニアックなものばかり！

学校になじめず、孤独な日々を送っていたさくらでしたが、ある日昇降口に掲示してあるご当地料理甲子園のポスターを見て心に火がつきます。



『オタクを武器に生きていく』

(14歳の世渡り術)

吉田 尚記／著 河出書房新社

令和の「オタク」はどんな人？
かつてはマニアックな変わり者のイメージが強かったオタクは、好きな事を仲間と共有する人、夢を追う人という認識に変わりつつあります。

本書ではオタクを強みにする方法や、オタク趣味を仕事にして活躍している人たちの話を紹介しています。もうオタクがカッコ悪いとは言わせない！自分が好きな事を生きる力に変えてみてください。



『色のひみつがすべてわかる！ すごすぎる色の図鑑』

ingectar-e／著 桜井 輝子／監修
KADOKAWA

私たちがふだん何気なく見ているテレビやスマホの画面、実は赤・緑・青の3色でできています。また、カラー印刷では、4色のインクを組み合わせ、さまざまな色が印刷されています。

色の組み合わせによって、目がチカチカしたり、同じ色が違って見えたりするのは、脳と関わりがあります。色に関する不思議や秘密を72の項目で紹介する本です。



『ネット情報におぼれない学び方』

梅澤 貴典／著 岩波書店

みなさん、その情報はインターネット上の情報で十分ですか？そしてその情報は本当に正しいものですか？

この本は、確かな情報を探し出し、使いこなすための方法を解説した本です。インターネット上の情報と図書館の持つ情報はどう違うのか、その情報の信頼性をどのように判断するかなど、現代の情報化社会を生きるために必要な知識が書かれています。



『学校では教えてくれない生活保護』

(14歳の世渡り術)

雨宮 処凛／著 河出書房新社

生活保護は、お金や仕事や家がなくても、最低限度の文化的な生活を国が保障してくれる制度です。しかし、それを使わず餓死する人が、この日本にもたくさんいます。

本書には、貧困世帯の痛ましい実情が生々しく描写されているので、読んでいてつらくなるかもしれません。しかし、将来、大切な誰かの命を守ろうと思ったとき、きっと役に立つ知識が書かれています。



『ウイルスって何だろう』

青野 由利／著 ちくま 筑摩書房

今やすっかり身近な存在となったウイルスですが、生物学的には非常に異質なものであることを知っていますか。

よく混同される菌^{きん}や細菌といった「生物」とは一線を画す「生物と無生物の間の存在」。それがどのように生まれ、増え、人間社会と関わってきたのか…。その在り方が生命の進化の歴史をひも解^{かき}く鍵ともなり得る「ウイルス」についてくわしく知ってみませんか。



『ごはん食べにおいでよ』

小手鞠 るい／作 講談社

父と息子、二人暮らしの森崎家では、土曜以外は中学生の雪が料理担当。家での食事では肉や魚を食べない主義の雪が作るのは、野菜や豆などを使ったメニューです。

お気に入りの音楽に、友だちと語らう本の話、近所の家族や友人に手作りのごはんをふるまうひとときなど、雪の日常が描^{えが}かれています。

おいしそうな料理に読んでいるとおなかですいてくるような本です。



『巨大おけを絶やすな!』

竹内 早希子／著 岩波書店

調味料である醤油^{しょうゆ}、みそ、酒。その製造で使^き用されている巨大な木おけは、100年以上も使^{たい}用できる耐久性と、調味料の風味をより良くする性質を備えています。

しかし、巨大な木おけは、安価な金属製のものなどに変わりつつあります。

そんな巨大木おけの製造技術を継承し、日本の食文化を守るために奮闘する人々の姿を描いた感動の物語です。



『13歳からのファシリテーション』

ちゃん せいこ／著
メイツユニバーサルコンテンツ

クラスや班での話し合い、スムーズに楽しく進められるといいですよ。そんな時に役立つのがファシリテーション。話し合いをいい感じにまとめるための技術のことです。

相づちを打ちながら話を聞くと、いった簡単なことから、付箋^{せん}やホワイトボードを使って意見を整理するやり方まで、授業や文化祭の身近な例から知ることができます。



『みんなのなやみ』

重松 清／著 新潮文庫

“思春期”って誰もが悩む時期。
友だち、家族、恋、部活や勉強…。

この本は、そんな悩みが解決する本ではありませんが、「あ〜、自分だけが悩んでいるわけじゃないんだ！」と読む人の心を軽くしてくれるような本です。

思春期や反抗期、親にもこの気持ちをわかっていてもらいたい！という時は、親にもすすめてみると、気持ちを分かち合えて、親子のバトルが減るかもしれませんよ。



『ムーミン童話全集2』

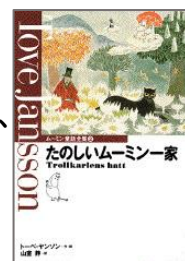
トーベ・ヤンソン／作・絵

山室 静／訳 講談社

ある春の日、冬眠から目覚めたムーミントロールとスナフキン、スニフの3人は、山のとっぺんで黒いシルクハットを見つけました。それは、帽子の中に入ったものを変化させてしまう、不思議な帽子でした。

その帽子のせいで、ムーミントロールの姿まですっかり変わってしまい大騒ぎに…。

ムーミン一家やムーミン谷の仲間が過ごす、楽しい毎日を描いています。



貸出中の本や、ここにのっていない本も予約・リクエストできます。

図書館には、中高生向けのコーナーや特集もあります。

課題図書あります

読書感想文コンクール
の課題図書は、6～8月は
貸出期間が8日間です。
夏休みの宿題対策などに
図書館を役立ててください！



本について、家族で話そう！

「家読(うちどく)」って知っていますか？

「家読(うちどく)」とは、家族で同じ本を読み、感想を話し合うこと。読む本は、絵本でも小説でもなんでもOK！
最近面白かった本、親が中学生の時読んでいた本…
本を読んで、おうちの人といろいろ話してみよう！

【問い合わせ】

- 加須図書館
- 騎西図書館
- 北川辺図書館
- 童謡のふる里おおとね図書館

中央2-4-17
根古屋633-10
麦倉1473-1
琴寄597-1

電話：0480-61-8200
電話：0480-73-3178
電話：0280-62-4400
電話：0480-78-2211



☆図書館WebサイトURL：<https://www.library.kazo.saitama.jp/> こちらから ↑